

## Q.1:インフルエンザワクチンを接種するにはいくらかかりますか？

当院のインフルエンザワクチンの接種料金は以下のとおりです。

	接種回数	接種料金
子供（6ヵ月以上13歳未満の方）	2回	2,500円/回
大人（13歳以上の方）	1回	3,000円/回
高齢者（大垣市内在住で65歳以上の方）	1回	1,700円/回

（平成30年度）

## Q.2: インフルエンザワクチンを接種する時期はいつがよいですか？

インフルエンザは例年12月～3月頃に流行し、1月～2月に流行のピークを迎えます。ワクチン接種による効果が出現するまでに2週間程度を要することから、12月中旬までにワクチン接種を終えることが望ましいと考えられます。

当院では、10月15日（月）～12月15日（土）（休診日は除く）の期間中、予約によるワクチン接種を承っております。（※10月1日（月）予約開始）

今年は例年より流行が早い傾向が見られることから、早めの予約をお勧めします。

## Q.3: 子供の2回接種の間隔はどのくらいあればよいですか？

### また他の予防接種との間隔は？同時接種もできますか？

インフルエンザワクチンの接種間隔はおよそ2～4週間とされていますが、免疫の獲得を良くするため、当院では3～4週間の間隔をおいての接種を勧めております。

インフルエンザワクチンは不活化ワクチンですので、接種後1週間経てば他のワクチンを受けられますが、接種の順番や間隔、対象年齢などに注意が必要です。

1ヶ月以内に他のワクチンの接種を受けた方（または受ける予定のある方）、他のワクチンとの同時接種をご希望の方は、受付窓口かお電話でご相談ください。

また、他院でインフルエンザワクチン1回目を接種済みで、当院で2回目のみ接種を希望される方も、受付窓口かお電話でご相談ください。

## Q.4: インフルエンザワクチンは本当に効果があるのですか？

インフルエンザにかかる時はインフルエンザウイルスが口や鼻から体の中に入ってくることから始まります。体の中に入ったウイルスは次に細胞に侵入して増殖します。この状態を「感染」といいますが、残念ながらワクチンはこれを完全に抑える働きはありません。

ウイルスが増えると、数日の潜伏期間を経て、発熱やのどの痛み等のインフルエンザの症状が起こります。この状態を「発症」といいます。ワクチンには、この発症を抑える効果が一定程度認められています。

発症後、多くの方は1週間程度で回復しますが、中には肺炎や脳症等の重い合併症が現れ、入院治療を必要とする方や死亡される方もいます。これをインフルエンザの「重症化」といいます。特に基礎疾患のある方や御高齢の方では重症化する可能性が高いと考えられています。ワクチンの最も大きな効果は、この重症化を予防する効果です。

※平成11年度 厚生労働科学研究費補助金 新興・再興感染症研究事業「インフルエンザワクチンの効果に関する研究（主任研究者：神谷齊（国立療養所三重病院）」の報告では、65歳以上の老人福祉施設・病院に入所している高齢者については34～55%の発病を阻止し、82%の死亡を阻止する効果があったとされています。

以上のように、インフルエンザワクチンは、接種すればインフルエンザに絶対にかからない、というものではありませんが、ある程度の発病を阻止する効果があり、また、たとえかかっても症状が重くなることを阻止する効果があります。

ただし、この効果も100%ではないことに御留意ください。

## Q.5: 昨年ワクチンの接種を受けましたが、今年も受けた方がよいでしょうか？

季節性インフルエンザワクチンでは、ワクチンの予防効果が期待できるのは、接種した（13歳未満の場合は2回接種した）2週間から5か月程度と考えられています。（5ヶ月経つと免疫が全く無くなるわけではありません）

また、インフルエンザワクチンは、そのシーズンに流行が予測されるウイルスに合わせて製造されています。このため、インフルエンザの予防に十分な免疫を保つためには毎年インフルエンザワクチンの接種を受けた方がよい、と考えられます。

## Q.6: インフルエンザワクチンの接種を受けられない人は？

以下に該当する方は予防接種を受けることが適当でない又は予防接種を行うに際して注意を要するとされています。

### 【予防接種を受けることが適当でない者】

- ・ 明らかな発熱を呈している者（およそ 37.5 度以上）
- ・ 重篤な急性疾患にかかっていることが明らかな者
- ・ インフルエンザ予防接種の接種液の成分によってアナフィラキシーを呈したことがあることが明らかな者
- ・ そのほか、予防接種を行うことが不適当な状態にある者

### 【予防接種の判断を行うに際して注意を要する者】

- ・ 心臓血管系疾患、腎臓疾患、肝臓疾患、血液疾患、発育障害等の基礎疾患を有する者
- ・ 予防接種で接種後 2 日以内に発熱のみられた者及び全身性発疹等のアレルギーを疑う症状を呈したことがある者
- ・ 過去にけいれんの既往のある者
- ・ 過去に免疫不全の診断がされている者及び近親者に先天性免疫不全症の者がいる者
- ・ 間質性肺炎、気管支喘息などの呼吸器系疾患を有する者
- ・ 接種するインフルエンザワクチンの成分又は鶏卵、鶏肉、その他鶏由来のものに対して、アレルギーを呈するおそれのある者

## Q.7: インフルエンザワクチンの接種による副反応はありますか？

免疫をつけるためにワクチンを接種したとき、免疫がつく以外の反応がみられることがあります。これを副反応といいます。季節性インフルエンザで比較的多くみられる副反応には、接種した場所（局所）の赤み（発赤）、はれ（腫脹）、痛み（疼痛）等が挙げられます。接種を受けられた方の 10～20%に起こりますが、通常 2～3 日でなくなります。全身性の反応としては、発熱、頭痛、寒気（悪寒）、だるさ（倦怠感）などが見られます。接種を受けられた方の 5～10%に起こり、こちらも通常 2～3 日でなくなります。

また、まれではありますが、ショック、アナフィラキシー様症状（発疹、じんましん、赤み（発赤）、掻痒感（かゆみ）、呼吸困難等）が見られることもあります。ショック、アナフィラキシー様症状は、ワクチンに対するアレルギー反応で接種後、比較的すぐに起こることが多いことから、接種後 30 分間は安静にし、お子さんの場合は目を離さないようにしてください。また、帰宅後に異常が認められた場合には、速やかに医師に連絡してください。